



# 家庭学習のススメ 活用の手引

## 小学校教職員向け

新潟市教育委員会では、子どもたちの家庭学習習慣の確立を目指して、『家庭学習のススメ』を作成・配付しています。

学校訪問等で出会った各学校の家庭学習習慣の確立に向けた優れた取組を参考にして、先生方向けの資料として、このリーフレットを作成しました。

家庭学習習慣の確立への取組のさらなる充実に向けて、各学校の実態に合わせて、このリーフレットを役立ててください。

**『家庭学習のススメ』でいう「家庭学習」は、次の3つです。**

## 1 宿題 2 予習・復習 3 自主的な学習

『家庭学習のススメ』には、学校で「分かる授業」を実践し、「家庭生活の中で、宿題や予習・復習という形で学習を補うと、学びが連続し、学習内容が確実に定着します。」とあります。

家庭学習習慣の確立には、先生方の共通理解の下に、全校体制で家庭学習に取り組ませることが効果的です。

次の4つの観点から自校の家庭学習への取組を充実させていきましょう。

**1 全校体制で家庭学習の習慣の確立に取り組みましょう。**

**2 家庭学習について、学校内で共通理解を図りましょう。**

**3 家庭学習のやり方について、指導や支援をしましょう。**

**4 家庭学習について、保護者との連携を図りましょう。**

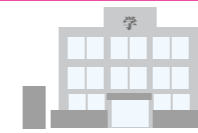
# 1 全校体制で家庭学習の習慣の確立に取り組みましょう。

## (1) 次のことについて先生方で情報交換をしてみましょう。

- 家庭学習について、自校の子どもたちの現状や課題は明確になっているか。
- 自分の学級や学年では、家庭学習の内容、量、方法等について、どのように指導・点検をしているか。

## (2) そして、次のことについて、先生方で話し合ってみましょう。

- 家庭学習に関して、目指す児童像は明確になっているか。
- 目指す児童像を具現するために、家庭学習に関して全校体制で統一して取り組むべきことは何か。



平日の家庭学習時間			平日のテレビ・ゲーム等の平均時間		
学習時間	小学6年生	中学3年生		小学5・6年生	中学2・3年生
30分より少ない	6.6%	9.3%	テレビ・DVD・ビデオ	1時間57分	1時間54分
30分以上1時間より少ない	24.2%	13.2%	電子ゲーム(インターネットゲーム含)	1時間	1時間3分
1時間以上2時間より少ない	53.7%	35.0%	携帯電話・メール	19分	29分
2時間以上3時間より少ない	10.9%	29.4%	総計	3時間16分	3時間26分
3時間以上	4.6%	13.1%			

※上記調査結果は、塾での学習時間は含まれません。  
(平成23年度「新潟市生活・学習意識調査」新潟市立総合教育センター)

# 2 家庭学習について、学校内で共通理解を図りましょう。

## (1) 家庭学習を行う目的について

- 家庭学習をとおして、子どもたちに身に付けさせたい能力や態度を明らかにすることが大切です。
- 学年や発達段階に応じて、子どもが意欲をもって主体的に家庭学習に取り組む態度を育てることが重要です。

## (2) 学年や発達段階に応じた家庭学習について

- 低・中・高学年と学年が進むにつれて、家庭学習のやり方も変わってきます。子どもの発達段階を踏まえて自校の家庭学習のさせ方を考えましょう。
- 特に高学年では、進学することを意識させるとともに、中学校との連携を図りながら、家庭学習のやり方を指導することが大切です。  
(☞『家庭学習のススメ』<以下『カテベン』>P2)

## (3) 学習内容や個に応じた家庭学習について

- 授業と関連させながら家庭学習の内容を考えましょう。また、一人一人の子どもの実態に合わせた課題も工夫できます。

## (4) 学習の習慣化を図る家庭学習について

- 学習への意欲を高めることが、学習の習慣化につながります。
- 家庭学習によって、子ども自身が、何が分かり、何が分からないのかを自覚して、次の授業に臨むことができます。
- このように授業に生きる家庭学習が子どもの意欲を高め、家庭学習の一層の習慣化につながります。



# 3 家庭学習のやり方について、指導や支援をしましょう。

## (1) 家庭学習の内容について

- 宿題では
  - ・基礎的・基本的な事項の定着を図ったり、時間を掛けてじっくり調べてまとめたりする内容などが考えられます。
  - ・また、次時の課題を提示し、家庭学習で考えさせ、次時で発表させるなど、本時や次時の授業との関連を図ると、さらに効果的です。  
(☞『カテベン』P3)
- 予習・復習では
  - ・予習・復習は教師が指示する場合や子どもが自主的に取り組む場合があります。
  - ・授業との関連を図ると効果的です。
  - ・子どもが慣れてきたら自分で計画を立てて予習・復習に取り組めるようにしましょう。
- 自主的な学習では
  - ・『カテベン』を活用して、自主的に学習する内容のヒントを子どもたちに教えましょう。  
(☞『カテベン』P5～P8)

## (2) 家庭学習の方法について

- 学年や教科の特性に合わせ、家庭学習のやり方を指導しましょう。
- 子どもの発達段階に合わせ、「宿題」、「予習・復習」、「自主的な学習」の重点やバランスを考えて家庭学習のやり方を指導しましょう。
- 子どもが意欲をもって、自主的に学習するようにさせることが大切です。
- 家庭学習時間や生活習慣を振り返らせて自分の家庭学習の仕方を見直す場を設定することも有効です。(☞『カテベン』P4, P9)



## (3) 家庭学習の点検と評価について

- 宿題や予習・復習では、子どもの努力を認め、励ますようにしましょう。
- 自主的な学習についても評価や称賛をし、意欲を高めましょう。
- 家庭学習の取組で、よかったこと、特徴的なこと、優れた学習内容などについて、授業などで取り上げ紹介するようにしましょう。
- 家庭学習の内容を授業で取り上げるなど、家庭学習を「次の授業に生かす」ようにしましょう。

提出

返却

家庭学習をしたら、次の授業がよく分かるようになったよ。

先生や家の人ががんばってるねって誉めてくれたよ。また、やりたいな。

家庭学習のやり方の指導・支援



# 4 家庭学習について、保護者との連携を図りましょう。

## (1) 保護者への情報提供

- 保護者会や懇談会、PTA総会などの機会に、『カテベン』等を活用し、家庭学習の意義や家庭での生活習慣との関連の大切さ等について保護者に伝え、家庭学習に対する保護者の問題意識を高めましょう。  
(☞『カテベン』P1～P4, P9～P11)
- 家庭学習をとおして学校が子どもに身に付けさせたい力や、そのために必要な手立てを保護者に分かりやすく説明しましょう。
- 学年や発達段階に応じて、家庭学習における子どもに対する保護者のかかわり方を一緒に考えましょう。
- 『カテベン』をアレンジするなどして保護者に対する家庭学習支援の手引を開発し、配付するなどの工夫もできます。
- 家庭学習についての子どもたちの取組の様子について、こまめに情報発信しましょう。

## (2) 保護者からの情報収集

- 保護者から家庭学習についての考え方や家庭での子どもの家庭学習への取り組み方(学習時間や学習場所、テレビ等の視聴)を聞く場を設け、学校における子ども一人一人への指導に生かすようにしましょう。
- 保護者の家庭学習にかかわる悩みやニーズを聞き取る機会を設け、必要な情報やアドバイスを提供することにつなげるようにしましょう。



次のページには、ここで述べた学校の取組にかかわるヒントを載せてあります。各学校の実態に合わせて、参考にしてください。

# 1 全校体制で家庭学習の習慣の確立に取り組むためのヒント

先生方の情報交換や育てたい子どもの姿を基に、自校の実態に合わせて、全校体制で取り組めるようなシステム作りを考えましょう。

- 課題の効果的な処理の仕方や評価について、職員間でアイデアを出し合い、システム作りに生かす。
- 家庭学習課題のプリントを作ったら、共有フォルダ等にストックし、次年度も使えるようにする。
- 学年の発達段階に応じた家庭学習のやり方を検討し、全校で歩調を合わせて家庭学習に取り組ませる。
- 家庭学習を推進する部門を校務分掌に位置付ける。など

# 2 家庭学習について、学校内で共通理解を図るためのヒント

## (1) 家庭学習を行う目的の例

- ・学習したことを理解させ、定着させるため。
- ・子どもたちが進んで学習に取り組み、学ぶ楽しさを感じ取ることができるようにするため。
- ・教師が学習内容の理解の状況を把握するため。など

## (2) 学年や発達段階に応じた家庭学習の例

- ・低・中学年では、本読みなどの基本的なことを、しっかり学習させる「宿題」に重点を置く。
- ・中学校との接続を考え、高学年では「宿題」、「予習・復習」に重点を置き、自らの考えをノートに書くなどの学習も重視する。など

## (3) 学習内容や個に応じた家庭学習の例

- ・基礎・基本と思考力・判断力・表現力とのバランスの取れた内容にする。
- ・子どもの興味・関心や学習の定着度に応じた課題を出す。
- ・3種類くらいのプリントを用意するなど、子どもが選択できる課題を考える。など

## (4) 学習の習慣化を図る家庭学習の例

- ・翌日の学習にチャレンジするという意欲をもたせるような課題を出す。など

# 3 家庭学習のやり方についての指導や支援のヒント

『家庭学習のススメ』には、家庭学習の出し方のヒントが満載です。是非活用ください。

このような全校で共通理解した家庭学習への取組を保護者に伝え、学校と家庭が連携して子どもの家庭学習習慣の確立につなげていきましょう。

なお、『家庭学習のススメ』は、新潟市教育委員会学校支援課のホームページにも掲載してありますので、活用願います。

## <『家庭学習のススメ』掲載URL>

<http://www.city.niigata.jp/info/gakusi/home.html>



## ✿✿✿✿✿✿ <各学校でこんな取組が> ✿✿✿✿✿✿

◎A小学校では、家庭学習用のノートを2冊用意させ、繰り返し取り組む学習と自主的な学習とに使い分けをさせて、家庭学習に取り組ませています。そして、担任が赤ペンでがんばりを称賛することで、子どもが自分のがんばりを実感できるよう取り組ませて成果を上げています。

◎B小学校では、小学校と中学校とが連携し、中学校区で家庭学習強調週間を同一時期に設定し、家庭学習習慣確立への小中学生、保護者、地域の意識を高めています。

